

あかつき 道徳通信

教授用資料

巻頭コラム 道徳科で楽しい授業をするために

横山 利弘（元関西学院大学教授）

実践レポート 道徳科の授業における言語活動の工夫

中舎 良希（京丹波町立下山小学校教頭）

No.2

2018年7月25日

巻頭
コラム

道徳科で楽しい授業をするために

元関西学院大学教授 横山 利弘

前号では「道徳科の授業はすべからく楽しみを旨とすべし」ということについて述べました。この号では「楽しい」について考えてみましょう。

何を「楽しい」と思うかは人によってずいぶん異なることは誰もが経験することだと思います。それだけではなく、何を楽しいと思うかによってその人の人柄がわかるともいえます。人と話していても楽しいと思っていることが一致しているときには話が弾みますが、まったく一致しない人との対話は話が弾まないだけではなく、その場から逃げ出したいくなるのではないのでしょうか。

そもそも教育は楽しみを内実とするものでありたいものです。教育という漢字が文献上初めて出てくるのは『孟子』の尽心章句上であると言われていますが、孟子は君子の3つの楽しみの中の第3番目に教育の楽しみを挙げています。確かに授業はうまくいったときには実に楽しく充実感を与えてくれるものです。（もちろん、うまくいくときの方が稀で、うまくいかないことが多く、そのときには実に苦しく虚無感にすら襲われるものですが。）

ところで、「楽しい」と思えるのはどのようなときでしょうか。一般の教科の場合は「わかる」とか「できる」という場合に子どもは喜びを感じ楽しいと思います。だから子どもが「わかる」ように授業を進めることと、「できる」ようになるためのコツを教えることが楽しい授業の条件になります。

これに対して道徳の授業では、教材に描かれた話の筋が「わかり」、登場人物たちの各場面での考えたこと思ったこと気持ちや感情を思い浮かべる（想像する）ことが「できる」ように授業を進めることが、楽しい授業の条件になります。

そのうえで道徳上の様々な価値について新しい理解、深い理解が開けたり、登場人物の生き方に感動し、自分もそうありたいという思いが起これば、道徳の授業が楽しいことはまちがいありません。（ただし、これが起こるのは奇跡に近いことですが。）

近江聖人中江藤樹は、心の本体は喜びであり、楽しみであると言い、もちまえを發揮しそれによって他者と繋がりが感じられるときに楽しみが生じると言っています。すると、楽しい道徳科の授業は、先生方がもちまえを發揮し子どもとの深いつながりを感じられる授業であり、子どもたちがそれぞれもちまえを發揮して級友や先生とのつながりを実感できる授業であるということになります。

ところで、子どもたちが楽しいと思うことには年齢差や個人差があるといえます。これを考慮して教材が作られていなければなりません。小学校低学年、中学年、高学年、中学生と成長していくにつれて何を楽しいと思うか。考えてみてください。それについては次号でお話しします。では、続きは次号で。乞うご期待！

実践レポート 「私の道徳授業」



道徳科の授業における言語活動の工夫

京丹波町立下山小学校教頭
中舎 良希

はじめに 言語活動には、「書くこと」「読むこと」「話すこと」「聞くこと」があり、これらを有効に取り入れることで道徳的価値についても子どもについても理解を深めていくことができる。しかし、その中でもアウトプットの「書くこと」「話すこと」が苦手な児童をどう理解したらよいのかが大きな課題であると考えている。

	OUTPUT	INPUT
音声言語	話すこと	聞くこと
文字言語	書くこと	読むこと

そこで以下の点について工夫をしてみた。

○話すこと・聞くことを中心にして授業を進める。

ワークシートに書いて発表、書いて発表……ではなく、自由に思ったことが言い合える雰囲気とテンポを大切に。なかなか意見が言えないことも認め、みんなで考えることを大切にしていく。

○自分自身を見つめられるよう促す。

低学年では、教材を通して考えた道徳的価値について自分自身はどうかと具体的に考えることができるようにすることが大切である。特に言語活動が苦手な児童にとっては、問いが抽象的では何を考えたらいいいのか分からなくなってしまうことがある。

○担任が聞くことで対話し、書くことで自分を見つめる。

全体的な指導はT1が行い、個別的な支援はT2（担任）が行うことにした。子ども一人一人についてよく知っている担任が寄り添い、聞きながら自分を見つめさせることで、表現することが苦手な児童も表現しやすくなるのではないかと考えた。

授業の構想

■主題設定の理由

学校の中にも社会の中にも、約束やきまりはたくさん存在している。低学年の子どもたちの中には「約束だから守らないといけない」「きまりを守らないと叱られるから」と約束やきまりの意義を考えずに他律的に守っている児童も多い。しかし自律的に約束やきまりを守ろうとする児童を育てるには、約束やきまりの意義そのものを考えさせ、時と場に応じて判断し行動することの大切さを実感させることが大切である。それが私と公のバランスを保つことにもなり、みんなが過ごしやすい学校や社会につながることもなる。

■指導にあたって

導入では、「みんなが自由に使える場所には、どんなところがあるかな。」と問いかけ、今日の授業で考えることをめあてとして提示する。低学年ということもあり、学習課題を方向づけたうえで授業を展開し、最後の問いである「みんなで使う場所やものを使う時、どんなことに気をつけたらいいのかな。」につなげたい。

展開では、自分たちのしたことについておばあさんや女の子の立場からも考えさせることで、きまりについて多角的に考えさせたい。さらに中心発問では「『はっ』として顔を見合わせたたかしくんとてつおくんは、どんなことを思っていたでしょう。」と問いかけ、主人公になりきって心情を考えさせたい。

その後、自己を見つめさせる場面においては、本校の児童は公園で遊ぶことも少なく、公園のベンチだけではイメージがもちにくいので、学校内でみんなが使っているものや場所（一輪車、図書室など）を具体的に写真で提示して考えさせる。そうすることで担任が振り返りのときに「どれを大事にしようと思った？」と問いかけ、選んで考えられるようにする。このことから表現が苦手な児童でも主体的に自分について考え、表現することができるのではないかと考える。

教材名 「黄色いベンチ」

主題名 やくそくや きまりを まもって

ねらい 自分たちが汚した黄色いベンチでスカートを汚してしまった女の子と泥をふくおばあさんを見て道徳的に変化する主人公について考えることを通して、約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にしようとする道徳的心情を養う。

内容項目 規則の尊重〔低学年C・(10)〕

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

対象学年：小学校2年生

出典：文部科学省

「わたしたちの道徳 小学校1・2年」

教材の内容（あらすじ）

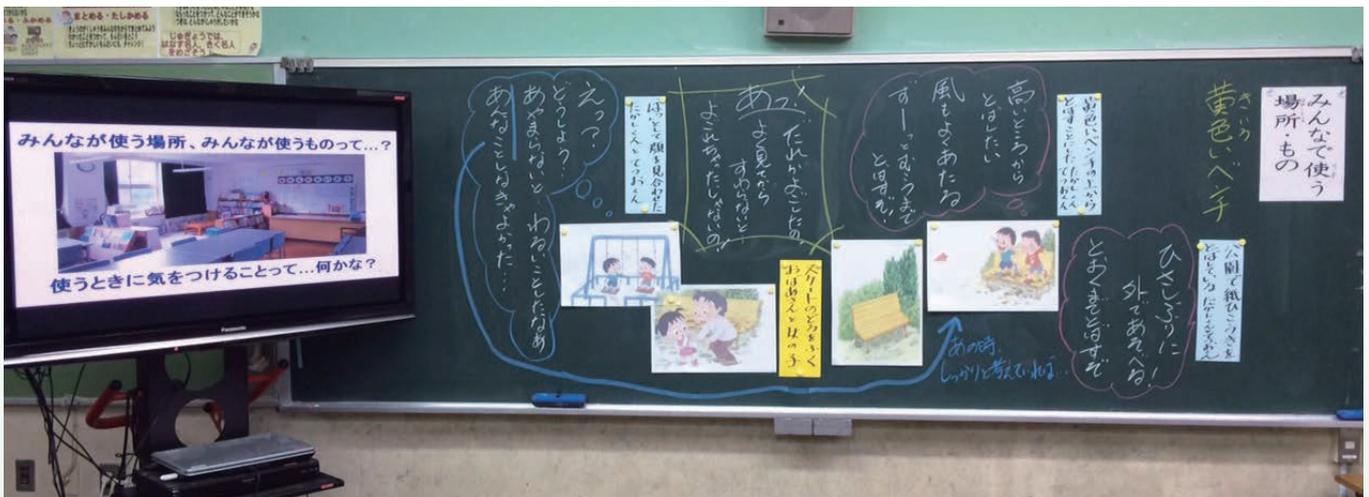
●長雨がようやく上がったある日のこと、たかしくんとてつおくんは、近くの公園の黄色いベンチにどろどろのくつのまま乗って、そこから紙飛行機を飛ばして遊びます。次に、立ったままブランコをこいでいると、五歳くらいの女の子がやってきて、さっきのベンチに座りました。泥だらけのベンチに座って汚れてしまった女の子のスカートをふいているおばあさんを見て、二人ははっと顔を見合わせるのです。

学習活動	発問と予想される児童の反応	指導の留意点
<p>■教材の内容への関心をもつ。</p>	<p>○みんなが自由に使える場所って、どんなところがありますか。 ・公園 ・トイレ ・運動場 ・体育館</p>	<p>時間をかけない。</p>
<p>教材を読む</p> <p>■公園で紙飛行機を飛ばし始める主人公の心情を理解する。</p> <p>■黄色いベンチの上から飛ばし始める主人公の判断について考える。</p> <p>■泥をふいているおばあさんの心情に共感する。</p> <p>■「はっ」として顔を見合わせる主人公の心情を考える。</p> <p>■みんなが使う場所で気をつけることを考える。</p>	<p>○公園で紙飛行機を飛ばして遊んでいるたかしくんとてつおくんは、どんな気持ちだったろう。 ・楽しいなあ。 ・どこまで飛ぶかなあ。 ・もっと遠くに飛ばしたいなあ。</p> <p>○どう考えて、たかしくんとてつおくんは黄色いベンチの上から紙飛行機を飛ばすことにしたのだろう。 ・高いところからならもっと遠くに飛ばせるだろう。 ・どこまで遠くに飛ばせるかな。 ・よし、もっと遠くに飛ばしてやろう。</p> <p>○スカートの泥をふいているおばあさんは、どんな気持ちだったろう。 ・まあ、こんなに汚しちゃって！ ・よく見てから座らないといけませんよ。 ・いったい誰がこんなところに上がったのかしら。 ・こんなところに上がる子がいるなんて…困ったものだわ。</p> <p>◎「はっ」として顔を見合わせたたかしくんとてつおくんは、どんなことを思っていたでしょう。 ・あっ、いけないことをしてしまった。 ・女の子とおばあさんに悪いことしたな。 ・どうしたらいいんだろ。 ・ちゃんと謝らないといけないな。 ・これからはやらないようにしましょう。</p> <p>○みんなが使う場所では、どんなことに気をつけたいのかな。なぜ、そうすることが大切なのかな。 ・汚したりゴミを捨てたりしない。 ・自分のことだけでなくみんなのことを考えて使う。 ・次の使う人が気持ちよく使えるようにする。</p>	<p>教材を範読する。 誰が、どこで、何をしたかを確認しながら進める。</p> <p>二人に批判的にならないように注意する。</p> <p>挿絵も活用しながら状況を確認したうえで発問する。</p> <p>紙飛行機を飛ばしたかった主人公はどうすればよかったのかについても考えさせたい。</p> <p>写真を用意しておいて提示し、具体的なイメージをもてるようにする。</p>
<p>■振り返りを書く。 ■教師の話を書く。</p>	<p>○みんなが使う場所には、運動場や公園、トイレなどいろいろあるよね。みんなで使うものも、ボールや一輪車などいろいろあるよね。自分もみんなも使うのですから、自分もみんなも気持ちよく使えるようにしたいですね。</p>	<p>振り返りを書く紙を用意しておく。 書くことが苦手な児童には写真から選ぶようにさせる。</p>

〈導入〉

〈展開〉

〈終末〉



実践を振り返って

■授業記録から

T: 「はっ」とした男の子たちはどう思っているのかな。

- ・ぼくらが気がつかなかったのが悪いのかなあ。
- ・女の子に悪いことしたなあと思った。
- ・謝りに行かなと思った。
- ・にている、早く謝りに行かなあかんと思った。

T: どうして?

- ・自分たちが汚したから、謝りに行かなあかん。
- ・自分たちが遊んで汚したんだから。

T: 二人は悪いことしたなあと思っているんだね。公園に来たとき、飛行機を飛ばしたかったんだよね。このとき、二人はどうすればよかったのだろう。

- ・くつを脱いだらよかった。
- ・やる前に考えてからやったらよかった。
- ・誰か来たときに座るかもしれないから、くつを脱いで飛ばそうとすればよかった。
- ・遊び終わったときにベンチを確認すればよかった。
- ・ちゃんとベンチをきれいにすればよかった。
- ・でも、途中で気づくことはあんまりないから、やめればよかった。
- ・みんなで使うものだから乗ったりしないで、大事に使わなあかん。

T: なるほどなあ、みんなで使うものは大事にせなあかんのか。みんなで使うものや場所って、いろいろあったよね。

- ・小学校。
- ・ブランコ。

T: 例えば、こんなところはどう?

<写真を提示する>

- ・一輪車。
- ・図書室や。

T: 使うときに気をつけることって何かある?

- ・本を破らへん。
- ・破れていたら図書委員か先生に言う。
- ・本の取り方、上のところを押して取る。

T: 何でそんな取り方するの?

- ・本を上から取ったらカバーが破れたりするから、そこを押して取る。

T: なるほど。じゃあ、これは?

<写真を提示する>

- ・トイレのスリッパ。ちょっとバラ

みんなが使う場所、みんなが使うものって...?



使うときに気をつけることって...何かな?

バラや。

- ・いや、めちゃくちゃや。
- ・スリッパは揃えなあかん。

T: 何で?

- ・次の人が履きやすいように揃えなあかん。
- ・みんなが大事に使うトイレやからスリッパも大事に使う。

■児童の振り返りから

- ・てつおくとたかしくんは、もうちょっと考えた方がよかった。どうしてかという、ベンチが汚くなるからです。
- ・図書室の本を破いたりページを折ったりしない。みんなて使うものだからです。
- ・スリッパを見て、ぼくもちゃんと片づけないと思いました。みんなが使うからです。
- ・これからいろいろなルールを守っていきたくて、正しい方を守って使いたいです。
- ・トイレのスリッパとかものとかを整理して、みんながきれいに使ってほしい。スリッパはみんなが使うものだから大事に使いたいです。
- ・それぞれの場所のルールを守らないと思いました。トイレを一番守りたいです。なぜかという、毎日使うからです。

■担任の先生から

発問のテンポや児童の発言に対する問い返しもテンポがよく、児童は教材にどんどん引き込まれていった。互いの意見を交流する中で、児童自身の言葉で「みんなで使うものだから大事にせなあかん」という考えを引き出したのち、身近なものや場所をスライド写真で示していた。それぞれの場面で「気をつけることって何かな?」と考えさせた後、振り返りに入った。教材に描かれている限られた状況にとどまらず、身近なこと、自分のこととして考えることができていた。自分の思いを表現することが苦手な児童も、そのスライド写真の中から一つを選択し、どんなことに気をつけていくのかを書くことができ、自分の問題として考えることができていた。

■おわりに

「考え、議論する道徳」と言われるが、特に低学年では、何を考えさせるのか、何を振り返らせるのかを明確にしておくことが大切である。考えさせるときには、話すこと⇔聞くことで考えを広げたり深めたりする。自分を見つめるときには、書くことで自分と対話させる。言語活動を有効に取り入れることで、子どもたちとともに考える道徳科の授業ができる。全校で道徳科の授業をどう進めたいのか研修をし、子どもたちも学習したことが「わかる」、先生たちも子どもたちのことが「わかる」楽しい授業を全校体制で実践すること、それが評価にもつながっていくのではないかと考える。

あかつき道徳通信 No.2 教授用資料

発行 廣濟堂あかつき株式会社
本資料の内容についてのお問い合わせは、本社編集部 (TEL :03-6435-6690) までお願いします。

この資料は、(社)教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成されており、配布を許可されています。